



## 同じ道を一緒に歩こう

在宅心身障害児を持つ保護者の指導講座が、県中央児童相談所主催で、10月4日、市の中央公民館で開催されました。この日集まったのは、豊栄市、安田町、聖籠町、中条町で集団プレイ(療育教室)に参加している児童の保護者約20人で、いからしの里(精神薄弱者厚生施設)園長飛内卓さんの講演の後、座談会で熱心な意見交換を行いました。

## 「白組さんに負けるな！」

快晴に恵まれた九月三十日、市内各地の保育園で運動会が行われました。市立さくら保育園では隣の柳原公園で、玉入れ、親子競技などに練習の成果を競いました。



## 国体柔道にそろって出場

葛中出身の今井・岡辺選手



十月十二日から奈良県で開かれる国民体育大会の柔道・少年の部に葛塚中学校出身の今井博君(写真右)と岡辺直記君(写真左)が新潟県代表として出場します。無差別級に出場する今井君は新

潟市の高志高校三年生、百二十キロの体重を利用しての払い腰が得意です。一方軽量級に出場する岡辺君は豊栄高校の三年生、体重は五十五キロながら得意技は豪快な背負投げです。二人は葛中時代共に活躍した仲で、当時の北信越大会団体戦では、準優勝という成績を残しています。国体は団体戦のみで、体重別に五人の選手が戦います。最初は先鋒の岡辺君、最後は大将の今井君という訳です。「自分のもつていける技と力を出し切って、悔いのない試合をしたい」というのが二人の目標です。

## 大蔵省新潟財務部は

「新潟財務事務所」に変更

大蔵省関東財務局の「新潟財務部」は、機構改革により、十月一日から「新潟財務事務所」に変わりました。

国有財産の管理処分、金融機関の監督、地方公共団体への融資等

の事務は、引き続き新しい「新潟財務事務所」で行われます。住所は新潟市営所通り二一六九二一五、電話は〇二五二二一九一六三二です。



(21)

## 北海道へ渡った葛塚編

写真は見事に耕地整理された葛塚郷である。各田地は土居の内側



にある各集落の地先から、縦に長く割られ平等に分割された。開発の労苦は博物館にもある映画「あし沼」によって、うかがい知れる。胸までつかる田。一本一本、後ずさりしながら苗を植える農民。着物は葛塚編か亀田編であろう。この木綿編は低湿地開発の人々に着用されてきた。

内沼沖の西脇絹さんから次のような苦労話をうかがった。「胸までつかる田に入るとヒルがいて血を吸われたものです。しかもヒルは皮膚の弱いところ弱いと入ってききました。よく吸われたのが、わきの下と内モモ周辺でした。葛塚編の布は強い。わきの下や股間を、一層補強した着物は、作業着として現在でも保管しておられる家がある。

この葛塚編が、北海道の開発にも一役買っていた事実がわかった。松浜から岩船にかけて、明治末から昭和のはじめにかけて、盛んに北海道へ越後衆が出かけている。中には加治川分水完成による水位低下で農業を断念した次第浜の人々が北海道へ移住した例もある。

この時、みやげとして、また交易の商品として、最も価値のあったのが葛塚編だったという。この木綿編はニシン場の仕事着として名声を博しており、新潟からの下りの荷では、特に大切なものの一つであったという。葛塚編を求め、カワサキと呼ばれる三〇五反帆の船で渡道した藤塚浜出身の人々も、同様の事を話してくれた。低湿地の人々の血のにじむような労働の中でみがかれてきた木綿編が、北海道でも貴重品として扱われた事実は、ひどく刺激的であった。

市史調査員 赤羽正春

## 市史編さんにご協力を

市では「豊栄市史」を編さんするため、資料調査を実施しています。次のような資料等をお持ちの方あるいは知っておられる方は、市史編さん室(博物館内六六一〇八一)までご連絡ください。〇土器、石器など  
〇古い文書、記録、写真など  
〇昔話、伝説など

## 表紙のことば

「健康・融和・しあわせ」をテーマに、九月三十日、葛塚中学校体育館で、市老人スポーツ大会が開催されました。十一回目の今年の大会には、六十六の老人クラブから約一千人が参加、アベック競走、ボール運び競走などにハッスルプレーを繰り広げました。

## 編集室

▽先日、全職員を対象とした「ワードプロセッサ」の操作講習を受けました。文書作成機とも言われるこの機械は、文書の作成から校正・編集・印刷・保存・はては辞書の機能まで装置されています。原稿用紙と鉛筆、消しゴムの要らない新しい型のオフィス・オートメーション(OA)に戸惑いと期待が入り交じった心境です。

▽市内には百三十の自治会があります。長い伝統のある所、新しい活動を目指している所。『わたしの自治会』と題し、今月から連載で紹介します。